



松柏中学校アーカイブ通信 第28号 2024年12月9日発行

きらめきタイム「アーカイブコース」責任者：山村 好克
(タイトルの背景は旧校舎)

校則改正や「○○宣言」について

11月25日、松柏中学校生徒会は、臨時中央委員会を開きました。これは、11月の重点活動で全校生徒が取り組んだ「ハートフル運動」を受けて、開いた話合いです。松中生のいいところや八幡浜中学校になっても残したい松中の良さなど5項目に関して、「仲が良い」等、全校から出されたキーワードを基に、「八幡浜中学校生徒会宣言」に盛り込む文言を考えていくという流れでした。



経緯を説明します。今年の夏休みに統合予定の3校の生徒会三役が集まり、その中で、八幡浜中学校の新しい校風づくりの方法として、「八幡浜中学校生徒会宣言」を作成することが決まりました。これは生徒自身が定める「八幡浜中学校の生徒が目指す生徒像」で、校則とは対極の存在だと言えます。土台になっているのは「愛中 GO 宣言」です。愛宕中では、長期休みに入る前日、つまり終業式に全校生徒が「このように過ごします。」と宣言するのです。(例「お互いの友情と信頼を深め、笑顔あふれる愛中を目指します。」)

「八幡浜中学校生徒会宣言」は三つの条文からなりますが、各中学校の個性を考慮し、松柏中学校は、「人権、仲間とのかかわり、多様性」の部分を担当し、提案することになったのです。人権サークル「プログレス」の伝統や、地域性などが土台にあると思いますが、穏やかな人間関係、温かい関わりは松柏中の誇りです。

話合いの結果、「宣言」に盛り込む文言は「人とのつながりを大切にし、個性を尊重し合う八中生を目指します。」に決定しました。1月7日には、各中学校の新生徒会役員が集まり、「宣言」の完成を目指します。では、「愛中 GO 宣言」とは何なのか、松柏中学校を含めて、市内の当時の中学校に共通する1990年代前半の歴史をひもといていきます。

校則の改正に向けた動きについて

背景には1989年に国連で採択された「児童（子ども）の権利条約」があると考えます。大人と同じで、子供にも様々な権利があると定めた国際条約なのですが、日本国政府がこれを批准したのは1994年でした。その間の5年間、生徒の権利を認めてほしい、自主性を尊重してほしいと中学校や高校で生徒たちが様々な形で声を挙げていました。【右：1992年11月2日の新居浜市 丸刈り廃止に向けた署名活動】



今年の松柏中学校の文化祭で、アーカイブコースが発表した「文化祭の歴史」では、「文化発表会」ではなく、生徒の自主性を生かした内容の「文化祭」にしたいと、1990年度の松中生が大きく動き、翌年から「文化祭」に切り替わったことを報告しました。頭髪問題だけでなく、生徒の自主性が生徒自身によって叫ばれていたことを示す例です。この1990年代前半は、全国的にも校則の見直しに向けた運動が大きくなり、当時のマスコミが盛んに報じていたことを覚えています。

【松柏中学校生徒手帳21ページ】

- ① 単車の運転、自転車の二人乗りと無灯火、夜昼トンネル通行禁止。
- ② 服装について
 - ・ 市内は私服でも良いが名札をつける。
 - ・ 塾、公的な催しに参加するときは、制服とする。
- ③ 夜間外出について
 - ・ 日没までには、必ず帰宅する。

八幡浜の公立中

市教委調査早ければ2学期末

今年度中に頭髪自由化

愛媛県の中学校の場合は、頭髪についてです。男子の丸刈りを廃止してほしいという声の中予から起り、東予や南予の中学校にも広がっていきました。1992年から1993年にかけてです。八幡浜市の中学校では、頭髪についてと、外出時の服装が指摘されました。松柏中学校生徒手帳には「生活のきまり」が記され、校外生活の部分にこう書かれてありました。「市内は私服でも良いが名札を付ける。」(ママ) 松柏中学校だけでなく、市内の中学校が統一してこのように定められていました。実際、愛宕中生だった私も夏はTシャツに名札、冬はジャンパーに名札で遊びに出掛けていました。

正しい判断ができる中学生を目指します。これを「宣言」に！

他の地域の中学校が制服自由化や頭髪自由化に改められていく中、八幡浜市の各中学校は「私たちはきちんと判断できる中学生だから、頭髪や服装の自由を認めてほしい」と生徒たちが学校側に要望したのです。「認めてもらう代わりに、私たちは中学生らしい生活を送ります」として定めた宣言が「愛中GO宣言」や「青石中GO宣言」なのです。1993年10月23日、八西地区のトップを切って、青石中学校が頭髪の自由化と私服での外出(名札着用は廃止)が認められました。

自由化へ髪型と私服

きょう青石中がGO宣言

決めたことは必ず守ります

教員や保護者が見守る中での生徒総会で、全校生徒が宣言を読み上げました。続けて「自由には責任が伴う」「この宣言は自分たちが決めたいわば校則なのだから、今まで以上に厳しく守っていききたい」等といった意見が出されました。集会を見たPTA会長が次のようにコメントしています。「結果を残すだけでなく、自由化に至ったプロセスを後輩となる生徒たちに伝えたいといけません。」と。

他に流されず、自分たちの生活を見直し、しっかり行動できるという自信を宣言にまとめる。この努力の結果として勝ち取った「GO宣言」なのです。このとき、松柏中生徒会がどのような取組をしたのかは記録が残っていません。しかし、与えられた自由や権利ではなく、勝ち取った権利であること、先輩たちの苦労や努力の結果が今につながっていることを忘れてはいけません。

今回は非常に硬い内容になりましたが、八幡浜中学校のスタートを前にして、30年前の市内の中学生の取組に学ぼうという動きがあることを紹介してもらいました。また、私個人は、過去の校則を完全否定しようというスタンスではありません。大人と子供の間際に当たる中学生の時期、ある程度の決まりを設けて、生徒の命を守るというのが校則だと考えるからです。生徒の安全を考えて、教師の側もその時々で考えて設定したと思うからです。

さて、この「宣言」ですが、松柏中には誇れるものがあります。それは「松中団結宣言」です。1996年に誕生した人権サークル「プログレス」ですが、発足して5年が経過し、当初の熱意が薄れてきたのではないかという声が校内に挙がっていたそうです。人権集会を開いたときだけ人権を考えるのではなく、常に心に携えておくべきものとしてこの宣言が制定されました。2001年です。続けて2002年2月22日には、人権ソング「前進」も誕生します。以来、20余年を経過しましたが、松中生が育んできた人権意識を、八幡浜中学校の宣言に盛り込むことになったのです。良き伝統をつないでいきます。

「松中団結宣言」
人のいやがることを
言わない
見逃さない

最後に松柏中関係の資料を紹介します。上が左から、生徒会長の襟章、制帽の帽章、学年を示す襟章です。下が生徒手帳です。左から手帳カバー(松柏中はもちろんエンジ)、生徒手帳中身、右は愛宕中の生徒手帳(色は濃い青)です。(すべて山村が所有)



上は生徒手帳カバーのアップです。何と、松柏中の生徒手帳カバーには校章のエンボス加工が施されています！(愛宕中にはないのだ。)

松柏中の名札や腕章を保存されている方、御一報を！「閉校記念誌」の記事にギリギリ間に合うかも！

「閉校記念誌」は78年分の沿革史部分の校正が完了し、近々残りのページのゲラが出来上がります。